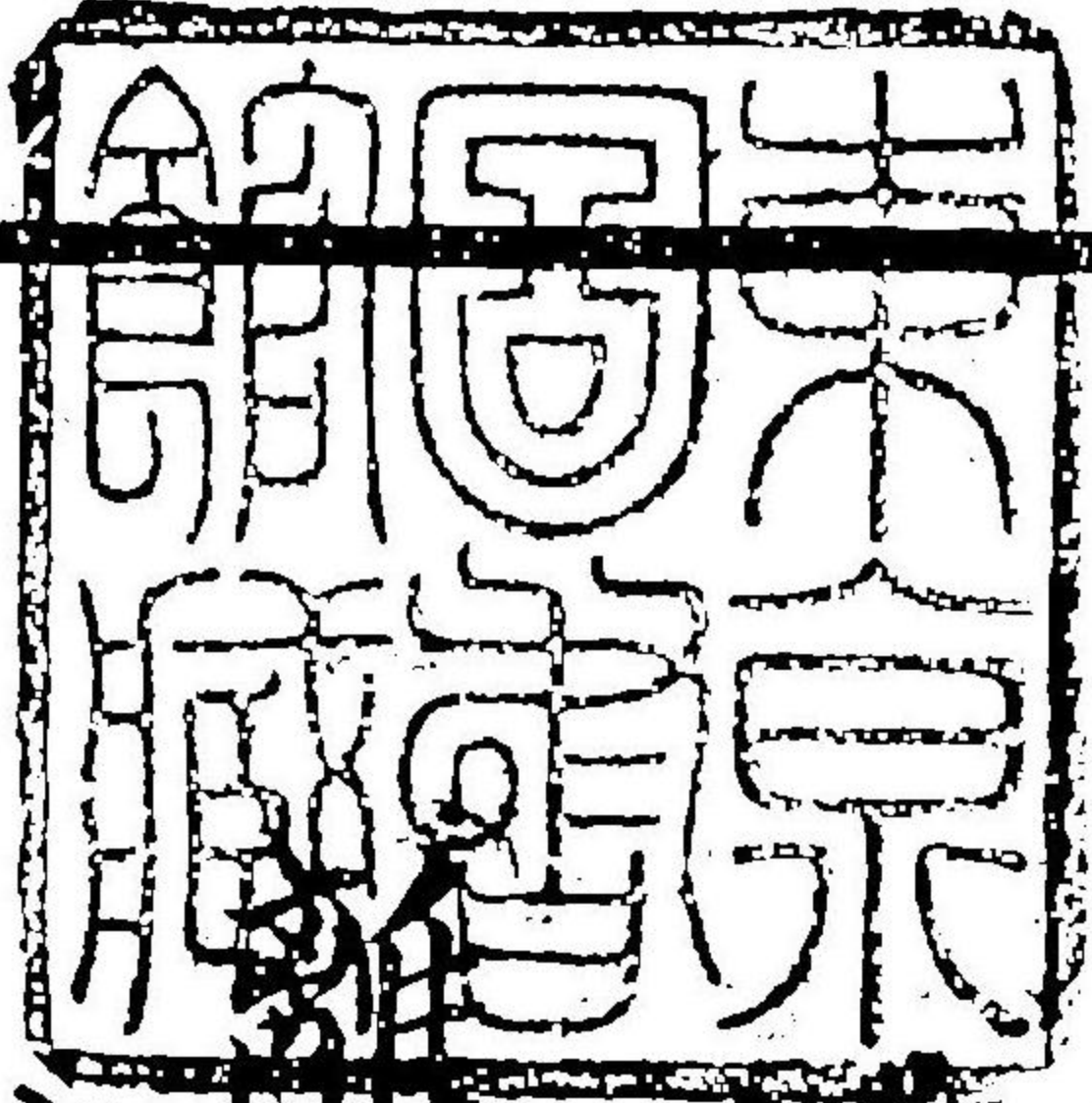


特35  
879



道の綱領

誠を取外さず

生々主眼

活物を捉えよ

陽氣丹太ふよ

我を眼

我を離さず

自然に任せよ

権少教心野時在善閣正  
故大講義星島良平原稿  
中講義三宅重造註釋

道乃集俚諺解 全

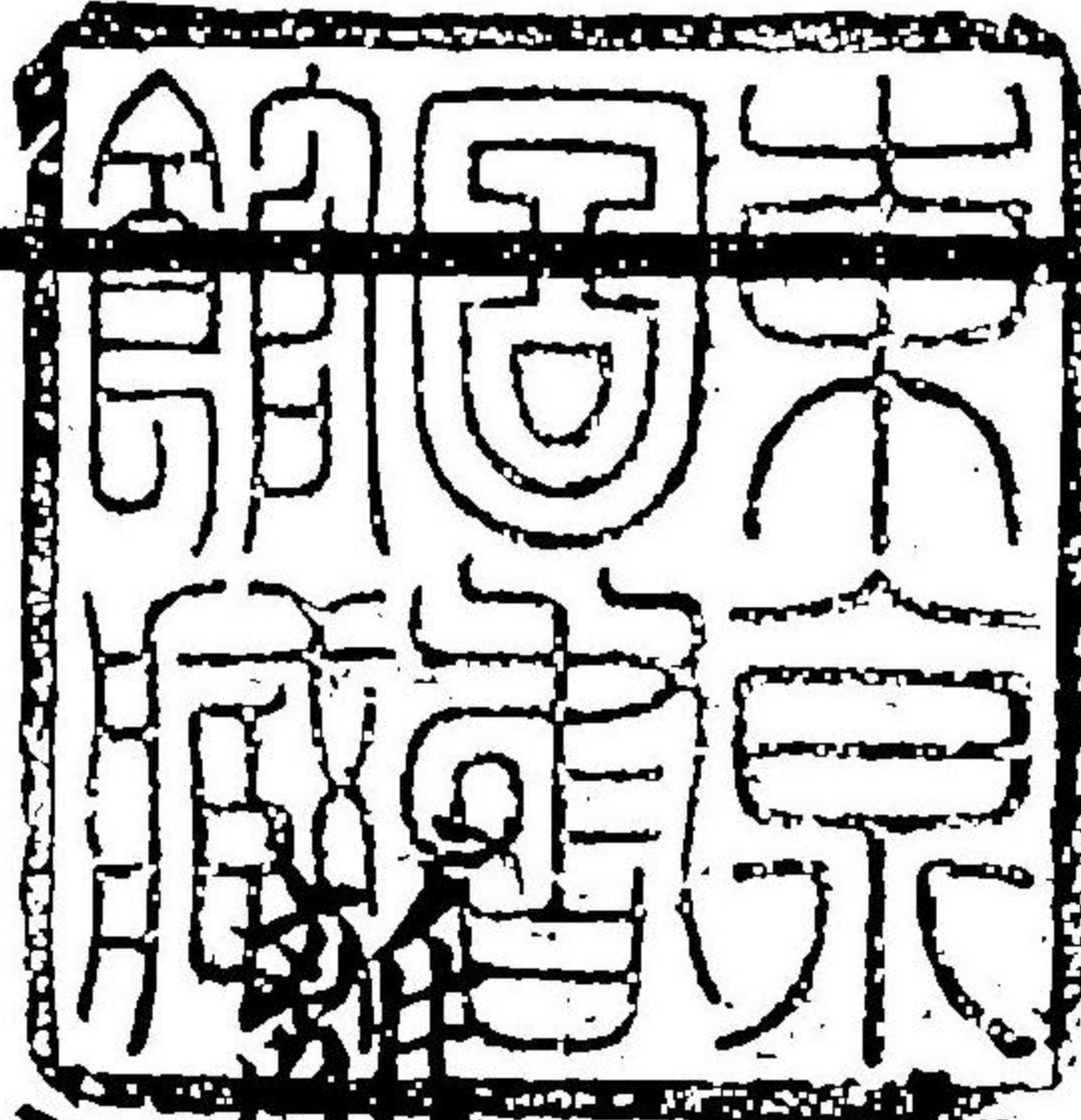
明治七年

十二月出版

朝陽堂出版



特35  
879



道の綱領

誠を取外さず  
生々主眼

活物を捉えよ

陽氣を大ふせよ

我を離れよ

我を離れよ

自然に任せてよ

権少教野崎在善閣正  
故大講義星島良平原稿  
中講義三宅重造註釋

道方集俚諺解 全

明治十七年  
十二月出版

朝陽堂出版



養心法

心ハ大盤石ノ如ク朽シ

魁メ

養氣法

氣分ハ輕身ノ如ク濁カレ

一勢ヨ

我を離る細目

望欲小成也

見心を去也

無念ヲ放也

人智を去也

足事ヲ去レ

取捨苦勞を去也

下ノ止擬作也

從病を去也

大切ヲ勤めよ

念を去る也

安んずる也



活物を捉えよの細目

善の羅を作らぬ

邪陽に泥を寄

何の活物を捉え

心の角をとり

雅を有りし

急いで出陽を

陰をとりし

手探り息をき

自分の心を傷めぬ

我を離るよの要言

不足の起らぬ裸

生れし昔をよ

活物を捉えよの要言

毎朝く生れし

心地の日をよ

神拜の要言

狂病と疑ひの

心路をよ



活物を捉えざるの総括

活物も息する物と言ふ事にて  
人をも勿論も畜類も至る迄  
天照神の法神徳の二六時申す  
鼻より通ひて不故生て  
舌より何れ有難くさる  
事ぞ六の度ぬ

我を離るるの総括

迷ぬるも魔あると申す人の  
心の迷ふ所をいふ事  
てある魔がまかり集りて指の  
因果たりを致すゆへハ  
形もぬぞ



明治十七年十二月吉日

元堂拜書



道乃稗俚諺解

緒言

本教は道と教との別有れども教は天より起  
 り道は自然と天より顕るゝとハ其本源ハ皆天  
 より出る事を明し給ふなり故に斯道ハ諸道に  
 卓越する事言を待はず教は皇大神の御教道は日  
 神の大道造物主と日神の働きなりとの神傳ハ  
 實に本教の三綱領にして忠孝の基本なり誠を



取外す天に任せよ我を離れよ陽氣にまほ活  
 物を捉えよ此五事と五條目とす扱又道の順序  
 ハ誠を取外す活物を捉えよ陽氣に成れ我を  
 離れよ自然に任せよ心を大磐石の如く押鎮め  
 氣分ハ朝日の如く勇ましくせよ此六ヶ條あり  
 是即ち道の濫奥を蓄育一天地の妙用を包含せ  
 るる環の端無きが如く誠ハ九事に一して限り無  
 き活物なり活物を陽氣かり陽氣に成るハ我を

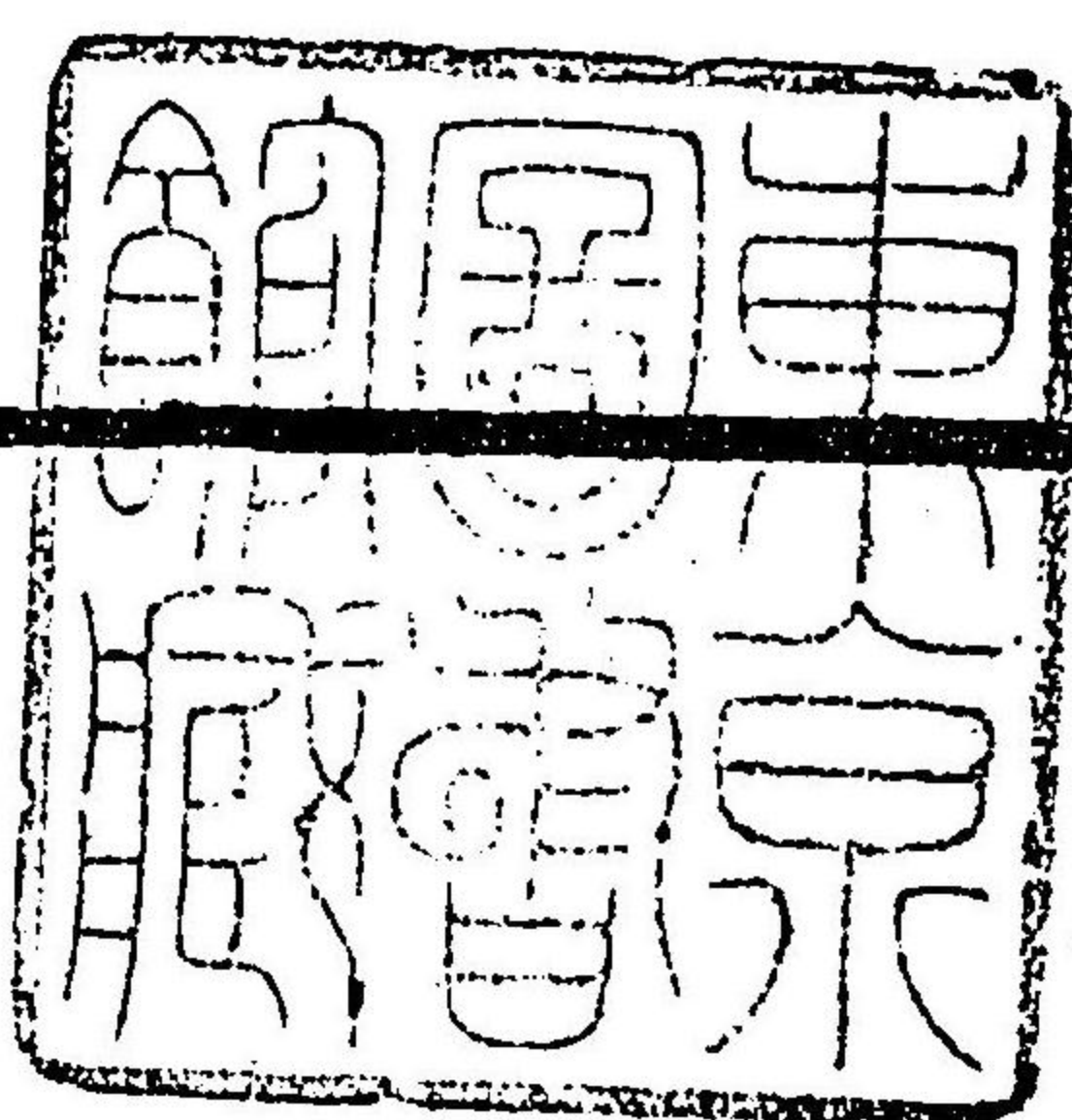
離るゝにあり我を離るゝハ自然に任すにあり  
 故に自然に任せて我を離れ陽氣に成りて活物  
 を捉えたるが直に日神と御一体なり自然に任  
 せて我を離れたる効驗ハ心が大磐石の如く鎮  
 るなり陽氣に成りて活物を捉えたる効驗ハ氣  
 分が朝日の如く勇ましくあるなり心が鎮まり  
 氣分勇ましく中より出了一念即ち道の誠あり  
 誠ハ天人の道の本体にして神人不二の靈寶ホ



道みちの誠まことも正直まことぢやうぢやうなり正直まことぢやうぢやうに明あきらりおれを日神ひのかみと  
 同おな心こころなり爰こゝに至いたりて始はじめて道みちの蘊奥ぐんゐを悟さとり天てん  
 地ちと共に樂たのしむる誠まことに誠まことに有難ありがたき事こと斗たうりなり

道乃栞俚諺解

一名道乃三十言



教祖神遺教 大講義星島良平原稿

權少教正野崎在善閱正

中講義三宅重造註釋

誠まことを取外とりまがせよ

斯道このみちの誠まことハ我われを離はなれ活物いきものを捉つかへる間あひだニ生なます



る活物なり我を離れたる効驗ハ心が大磐石  
 の如く鎮るなり活物を捉えたる効驗ハ氣分  
 が朝日の如く勇ましくなる也心大磐石の如  
 く鎮り氣分朝日の如く勇ましく中より浮む  
 一念が即ち正直の誠なり正直の誠とハ水火  
 兩靈の靈機を云此誠ハ天人の道の本体よ  
 て天地に遍満せる日徳の陽氣より生じ誠は  
 丸事と諭し給ひ陽剛の徳が即ち本心の

誠よて其誠を取外さぬが人の天職な  
 り誠が天人の大道を事を知り心よ悪き  
 と思ふ事を身に行をぬ様致し人の見聞  
 うざる所誠慎して自他を論せば萬事我が  
 家事と取扱ふ如く働く者ハ誠を取外さぬ人  
 と稱すなり

活物ヲ捉えよ

活物ハ天心なり人心なり捉えよとけ其明德



を會得するの謂なり本心が形の欲より引くる  
 と其明德を失ふ故より形の欲を離れて正直  
 のひとつより止り能く靈無養ふ時と天地と一  
 体となり即ち天地の活物を呼出し活物を捉  
 える教語を覺悟する所あるべし

陽氣より成る

陽氣ハ日神乃陽徳光明温暖の大氣なり其陽  
 精陰靈が凝結して萬物の形となり心となる故

よ人の心が嬉しく面白く勇ましくなる時と天  
 地より遍満して快活の元氣とあり陽剛の徳身  
 軀より充ち満るが即ち陽氣より成るなり

我より離る

我とは物より對するの名稱離るよとは物我の  
 隔て無きを云譬へは世務経歴上萬事萬端少  
 しも己が私意を交へば一切天より任せて誠は  
 人の天職たる事故心より思ひ定めて日用を大



切きに勤つとめ愛惜あいしやく嗜欲しやく名聞なもん我慢まん思慮しりょ分別ぶんべつを捨人すてじん  
智ちを去さるが我われを離はなしたるなり

自然ぜんに任せよ

自然ぜんハ即すなはち天道てんたうの自然ぜんにて四時しじ循環じゆんかんせる天てん  
造地化さうちけの功用こうようを云ふなり自然ぜんを不揃ふそろいと云い  
教語けうごあり陰陽いんやう水火すゐくわ男女なんにょ牝牡ひんま悉しつく背反はいはんの物もの不ふ  
らざるハ無なし此こゝニツの物ものを合あせて萬物ばんぶつが生い  
むるなり其廣大そのくわうたんより測そくり知らむ妙用めうようが

即すなはち自然ぜんよりして任まさると疑うたがひも無なく我われも亦また  
く只ただ大道たいだうに従したがひて誠まことを行おこなひ已おのが受得うけえたる分ぶん  
限げんに任せ心こころ安やすんずるが自然ぜんに任せたる亦また  
り

心こころと大磐石たいばんせきの如ごとく杞しに鎮しづめ氣分きぶんハ朝日あさひの如ごとく  
勇いさましくせよ

心こころを大磐石たいばんせきの如ごとく鎮しづめるハ如何いかなる患難えんなん流りゅう  
離りの際さいに於おいても本心ほんしんの神かみを動うごかさば身軀しんたいの



中府ちゆうふは鎮しんめてをる事ことなり氣き分ぶんハ朝あさ日ひの如ごとく  
 勇いさままくくせよとハ夜や陰いんの氣きを拂はらふて出いる朝あさ  
 日ひの登のぼり玉たまふ如ごとく勇いさままくく中ちゆうは麗うる敷し氣きを十じゅう  
 分ぶんよささくく含くみ以もつて陽やう精せい陰いん靈れいを養やうふ事ことふり此この  
 段だんハ前ぜん段だんの小こ結けつ束そくハ活い物ぶつと陽やう氣きと收しゆう束そくすれ  
 是こゝハ單たんハ活い物ぶつとなるれり我われを離はなれ自然じぜん不ふ任にんま  
 を收しゆう束そくすれバ單たんハ我われを離はなるハ止とままる心こゝろの大たい  
 磐ばん石しやくの如ごとく鎮しんるハ我われを離はなれたる効きう驗げんなり氣き

分ぶんの勇いさままくくなるは活い物ぶつを捉とえる効きう驗げんなり

無む欲よくハ成なま

此この条じょうより以下い下げ十じゅう条じょうハ我われを離はなるハ細さい目もくなり無む  
 欲よくとハ無む我がの事ことよて成なままとハ私し心しん私し欲よくを去さ  
 り非ひ分ぶんの望のぞを離はなれ平へい素そ日じつ用ようの上うへハ於おても衣い  
 食じき住ぢゆう其その他た一いち日にちも欠くぐぐららざざる物ものを大たい切せつハ  
 扱あつひ何なに事ことも私し意いハ蔽おほままぬ様やうハ致いたハ已おのが受う得げ



たる分限ぶんげんに任せまら只今日ただこんにちを有難ありがたく勤め正直しんちやくの  
 誠まことを本もととして獨ひとりを慎つとみ身を修つくしむるが我われを離とる  
 初歩しとめなり

無念むねんに成なる

無念むねんといいハ愛惜あいしやく嗜欲しやく雜念ざうねんを去さり形かたちの事ことを忌ひむ  
 只有ただ難あやうく嬉うれしく勇いさましく其日そのひ其時そのときの心こころはな  
 り見みては樂たのしき聞きてハ樂たのみ天地てんちと共ともに氣きを  
 養やしなひ胸中けうちゆうを清きよらかよよして少せきしれ間まもゆると

なく穢けがれぬ様やう一心いつしんを澄すまして餘念よねんなく一筋ひとすぢに  
 道みちを樂たのめけ即すまち無念むねんに成なり無欲むよくなるるの基もと  
 なり

足たる事ことを知しれ

足たる事ことを知しれといいハ足たらぬを知しる事ことより食く事じ  
 も腹はら八合はちがふと云い譬たとひの如ごとく萬事ばんじひかへめよよして  
 其上そのうへに何事なにごとも天命てんめいに任せまら天理てんりに順したがふて道みちを  
 勤つとむ時ときハ天てんハ無祿むろくの人ひとを生うまはば又また無用むよくの物もの



を生ぜ以鶏犬牛馬に至る迄皆夫々足る事を  
 知りて其外を願て凡人と萬物の靈長たるを  
 天命の儘に誠を勤れば即ち足る事を知り無  
 念なるれり

天の御擬作を大切し勤めよ

天の御あておひとは士農工商とも皆夫々の  
 天職あり農も耕作を精出し工ハ利器を以て  
 其業を能くし商ハ物品を撰み正直し捌き士

ハ己が分を尽して廉耻を磨勵し天地に愧る  
 事なく善し進み悪し陥らば公事を營む事の  
 如く善悪共し有難く勤めて心鏡は曇りの懸  
 らぬやう其分を尽して足る事を知るが大切  
 し勤る也

安房は成道

安房とは知覺もなく思慮分別もなく貧富寒  
 暑とも知らざる者を云ふ常人にして天に任



せは斯くの如き行為に成るを安房になれと  
 云ふ赤子の心も成るといふ教語の如く只何  
 事も天に任せ孝子の親に從ふ心となるを  
 古語に君子容貌愚なるが如くと云へり故に  
 我を離れて萬事日月に打任せいつまでも小  
 供の心を離れば安房に成るが天の御あてが  
 ひを大切に勤るといふことのなり  
 慢心を去ま

由人一人とハ心グ満て溢る、時々慢心を生  
 じて安房に成まば人を眼下に見下して道に  
 外れ又神明の御心も隔てが付き萬事誤り  
 の出来るハ皆我が慢心なり故に毫末も慢心  
 の無き様本白地になりて心は叶ひ道は外ま  
 へ容貌愚なるが如き君子の人となるを  
 人智を去て天に任せよ  
 人智を去るとは捷給巧利の思慮分別を去る



事を云總て人の為を業は限りがあり天道  
 は公明正大よりして極り無一故は捷給巧利の  
 人智を去て自然の生物を自然の天命に任せ  
 無為無極の道を樂むが人智を去て天に任せ  
 たり人智はたとへば小供の小力細工をする  
 が如し親の見る時ハ至てあぶな一天の御心  
 も同様なり人智を去らざれば天に任せ難し  
 取越し苦勞をまな

取越し苦勞とハ思案先縁よりいらざる心配  
 なり  
 是形に付て起る我の身構へより無益の事  
 心を費やき事なり故に我を離れて誠を勤む  
 る時ハ少しも苦にならざる事れ一天道ハ自然の  
 道理に跡もなく先もなく今が今の事のみ  
 思ふが斯道の本意なり道はたとへば蜻蛉の  
 竿頭より止るが如し無為自然の樂みを樂む時



人智を去て取越し苦勞をする事なり

臆病を去せ

臆病とハ胸の病なり臆病より心痛胸痛を發

陰氣になり陰氣うら諸病とある故に勤め

て臆病を去り形の事を忘る有難く嬉しく面

白く勇まらる天地生々此元氣を養ひ天地と

一体おなる時と心が強く太く大丈夫となり

て物は驚く事れく物の苦は成る事無し誠は

有難き樂しみの心計りよなるさすれば取越

しの苦勞ハ止むて臆病の起る事無し

念は継ぐな

念を継ぐなとハ兎角何事も入りくまぬ様は

相考へ初念を大切よせよとの教語を味ひ見

るぞ念を継ぐハ私心より起る忘念なり初

念ハ本心の誠なり道は只一心を澄して誠を

勤むるの外お誠をれば明らるなり心明ら



なる時ときと天照大神我一心あまてるおほりこごがうつしんと頭あたまを給たまひて運うんを  
 添そへ玉たまふ事こと疑うたがひあること危あやらむこと彌や以もて疑うたがひを  
 ばれば無我無念むがむねんとなり念ねんを継つぐ事ことか一ひと念ねんと  
 継つぐ事ことおけれむを無欲むよくと成なることれり此段このだんを以もて  
 我われを離はなる、細目さいもくの終しまりとす

善人の罪を作るな

此条このぢょうより以下いづくぢう九条くぢうハ活物いきものを捉つかえる細目さいもくなり  
 善人の罪ぜんんのかちを作るつくなとハ人ひとと對たいする教語くわうごなり

世よは善人ぜんじんと稱なづする程ほどの人ひとハ多おほく陰氣いんきよて氣き  
 を枯から一ひと遂つひは形かたちを失うしなひ衆善人しゆぜんじんの御玉みたまを痛いため  
 穢けが一ひと天道てんたうは是これ耶非耶やひや乃なほ歎なげを發はらせ一ひとむる事こと多おほ  
 一ひと大神おほなりと對たい一ひと奉ほうりて此上このうへの罪つみと何なにる危あやらむこと  
 以もて故ゆゑと天あまの生なまみ玉たまふ我われが誠まことの玉たまを大切たいせうと活い  
 一ひとて衆善人しゆぜんじんの罪つみをつくる危あやらむこと

何事も活なにもこといか一ひと上手うへまと成なま

何事も活なにもこといり一ひと上手うへまと成なまとハ人ひとと接せうするの



際何事もよき方へ取直して人の心を殺さば  
 穢さるる様は取扱ふべしたとひ人が悪事を  
 仕向て来る共此方よハ綿を以て受けよその  
 教語を思ひ活と誠の心を以て人よ交り物よ  
 應ずる時と悪人も善心よ翻り禍と轉して福  
 と為さべし一言よても事我破らぬ様よよき  
 に取直して感服せしむるが何事も活り上  
 手よ成るなり

難あり有難

難あり有難しとハ如何なる患難流離の憂苦  
 よ逢ふとも本心を鎮め氣を屈せば有難き一  
 心を動かしぬ時と人も其艱難は撓ざるを觀  
 てハ感ト聞てハ感ト人の心を活かしなり爰  
 が心のみよし形ノ事を忘れ萬事天命と覺  
 悟を定めてをる時と難のあるも苦しあらざ  
 るなり教祖曰三十年以前の大難が今此幸と



なる難て、有難いに相成と仰せられ、あり  
陰氣を去れ

陰氣ハ陽氣の反對より、陽氣弭と陰氣強る  
より陰氣の勝つハ穢なり、穢と氣枯よて大陽  
の氣を枯らすハ陰氣なり、ほら以悲し以情を  
い乏し、よ以ガ陰氣の鍾るより有難に嬉し、以  
面白以ガ陽氣の満るなり、依て陰氣抜らひ  
除き、内外清淨一心乱まざる様、日神と我が心

を一つより、少ゆるみなく、陽徳が満る  
時難あり、有難き事を悟れば、陰氣の起る事を

御分心、抜痛めを

御分心を痛め、ふとハ己が本心ハ天照大神の  
分心をまば、仮りよも穢と事なく、有難き一心  
を養ひ、造次顛沛よも彼の丸き御形の有難き  
陽徳をゆるめ、ぬ様は御分心の御守りをする



心こころはなりてをる時ときも限りかぎりのなき命いのちハ心こころの神かみ  
といふ事ことを悟さとる所ところあるべし道みちハ只心ただこころ一つひとよ  
て外そとよ求もとむ道みちもなす夫故道それゆゑみちハ心こころをむ時ときハ陰いん  
氣き去さて御分心ごぶんしんの痛いたむ事ことれし

邪陽よやうハ泥どろむな

邪よハ正せいハ對たいする詞ことばよて正陽せいやうハ即すなはち日ひの神かみ我われ  
本教ほんけうハ尊信そんしんをる大神おほいなり邪陽よやうハ心こころ迷まよふ時ときハ  
信しんむる倚賴いらい神しんなり心こころ正せいしきを得えざる時とき物ものハ

泥どろむハ人情にんじやうの常つねなり泥どろむハ我われなり泥どろまざる  
活物いきものあり斯道そくどうは日ひの神かみを目當めあてに修行しゆぎやうして  
日德につとくの廣大くわいだいある有難あやうき事ことを体認たいにんして天地てんちの  
活物いきものと已おのが活物いきものと一体いつたいハなり心こころ正せいしきを得え  
るが肝要かんえうなり邪陽よやうとハ流行たうりやう神かみの神憑かみより巧發奇かうはつ  
中ちゆうの類るいをも云いふ又斯道またそくどうよりとも禁厭きんえんを施ほし靈れい  
驗けん顯けんれざる事ことある時とき心こころが煩悶ぼんもん上氣じやうきして一心いつしん  
の疑結ぎけつ靈驗れいけんを顯けんむ事ことあり其靈驗そのれいけんハ執著しつじやくむる



を邪陽いんやうの泥どろむとも云ふ是こゝは本教ほんけうの神徳しんとく自然じぜん  
 此靈驗こゝありて迷慮まゐり不生よむるが故俗ゆゑは  
 シコルと云ふ執著心しつしやくしんは憑據ひょうこをるシコしの禍津まろつ  
 神乃類かみを云ふ俗諺しやくげんは鯛たいの頭あたまも信仰しんけうりらと云  
 鄙言ひげんは却かへて疑念ぎねんなき正直心しやうじきしんより發はする實事じつじ  
 を指さす比喻ひゆいの詞ことばあるが故迷慮まゐりの邪陽いんやうとい自  
 ら異なる所こところあり能々よくよく此教味こゝを嘗あまて咀嚼そくかくせし  
 自ら省察おのづか了得せりやくする所ところあるが

心の角刈取こゝろのかくと

心の角かくを取れとい水火すゐくわ兩靈りうりやうの凝結こうけつれるとの  
 よて其本体そのほんたいを明めいと云ひ其妙用そのめうようを誠まことと云誠まことと  
 丸事まることにして本熱ほんねつ丸まるを明あきらりある活物いきものなり  
 其渾然そのこんぜんたる心こゝろは角かくの出来いでるハ心こゝろが形かたちは引ひく  
 る、故言葉ゆゑことばも眼めも聲こゑも頭あたまも、觚稜かど  
 たり依よりて人欲じんよくを去さり物我ぶつがの隔へたてなく正直しやうじは明あき  
 りなれば日神ひのりと同ト心こゝろなりとの教語けうごは基もととす



心の本体を能く知り正直の誠を以て日神の御心と一体ある時と邪陽泥み心は角のばく事れ

怠らば御陽氣を吸へよ

怠らば御陽氣を吸へよとハ即ち活物を養ふ

なり活物ハ心あり心ハ日神陽剛の徳を受て

備へたるものゆゑ晝夜間断なく陽氣を吸ふ

て活物ハ養ひ陽氣體中ニ満る時ハ即ち天地

の元氣と一体なる古語に陽氣の發する所

金石皆透るとハ陽剛の徳をいふなり教祖冬

至の朝有難く嬉しく思へば日光を吞み給ひ

て活物を養ふ事を教へ玉ひトあり此段と次

段とハ心理ニ係らざる活物あり

下腹で息をせよ

下腹で息をせよとハ心神を臍下ニ鎮る事を

り下腹で息をせよ時と常ニ陽氣が下ニ鎮り



水氣スイキが蒸發ジョウハツ一氣血キケツが循環ジュンクワン一心シンが鎮チンり氣分キブンが  
 勇ユウま一くるるなり其中そのうちより浮ウキみ出デるの一念イツネン  
 即ツレち道ミチの誠マコトよ一其妙そのめう用ヨウハ測ソク知チられぬ天テン  
 地チの活物いきものと一いつ体たいよなるあり天地てんちの活物いきものと一いつ  
 体たいよなる此妙このめうを得イるハ下腹きふくで息いきをさるが肝かん  
 要えう外がいり此段この段ハ活物いきものを捉ツマえる細目さいめの終ハジりなり  
 不足ふそくが起おこつも裸はだかで生なま一昔むかし思おもへよ  
 此一條このいちじょうハ我われを離はなる、要言えうげんなり不足ふそくの起おこるハ

皆本みなもとを忘わすれぬが誠まことを勤つとむるの本もとなり何事なんごとも  
 本もとを顧かへる時ときと有難ありがたい事こと斗たりよて不足ふそくの起おこ  
 る事こと一裸はだかで生なれ一昔むかしを思おもへとは本もとを忘わすれ  
 ぶとの御教ごかうなり國くにの本もとは家いへ一何なんり家いへの本もとハ  
 身みにあり身み此本このもとハ父母ふぼより心こころの本もとハ日月にちげつか  
 り故ゆゑよ心こころを養やしなひ本もとを大たい切せつよさる時ときハ不足ふそくの  
 起おこる事ことなり

每朝まいあす一いち生なま變かへる心地こころぢて日拜にちをがらをせよ



此一條ハ活物を捉える要言なり毎朝々々生  
 き變々心地下日拜とせよとは毎朝早く起き  
 身は清め心を新たよして形の事を忘れ只有  
 難き一心よありて天地生々の元氣を迎へ日  
 徳即ち心神を我が身体の中府に納め少しも  
 ゆるみなく穢さぬ様よする時と天地一体な  
 り天地一体なる時ハ更に我といふものなく  
 して陽徳の充滿せる活物の妙理を悟るが日

舞の真訣歟此所天心の場合るるを思ふべ

臆病と疑ひが去ら祓を御蔭ハ頭をぬぞ  
 此一條ハ神拜の要言なり臆病と疑ひが去ら  
 祓を御蔭が頭をぬとハ臆病も疑ひも皆我を  
 り依て我を離れて活物を捉えざれを神徳靈  
 驗の頭をる、事なるとなり道歌よも祈りて  
 も驗にあきこそ効するれ已が心よ誠をけれ



ばとあり故ゆゑふ我われを離はなれて有難ありがた一心いつこころよなり萬まん  
 事こと夫そ又また任まかせて疑うたがひを離はなき誠まこと一つよあらされバ  
 御蔭おかげハ蒙うけらまざるなり

活物いきものハ息いきする物ものといふ事ことで人間にんげんも勿論もちろん鳥畜類ちうちくるゐん  
 又また至いたる迄までき天照あまてる神かみの御神徳みかみとくが二六時中ふそくちゆう又また鼻はなと  
 口くちより通とほひ玉たまふ故ゆゑ生なて居ゐらるゝ何なんと有難ありがたく尊たつと  
 以もつ事ことでハ御座みざらぬり  
 此この一糸いちしハ活物いきものを捉とらえろ條目じょうもくの結東けつとうなり息いきと

るとはいさりきたりすると云い夏なつふり通とほひ玉たま  
 ふとハ譬たとへば天照あまてる大神おほなみの御神徳みかみとくが糸筋いとすぢの如ごと  
 く人ひとの肉躰にくたい又また引續ひきつきてあるをいふ義ぎ又また尊たつと  
 以もつ事こと此上このうへもない御神徳みかみとくが入いり替かりかへ新あらら  
 しくいたりきたりするで活いて居ゐらるゝあり  
 有難ありがたき尊たつと事こと限かぎりなき由よし忍しのび何なんとも言いひ方かたの  
 な以もつ事故じこ只有難ありがたひ尊たつとひとのみ仰おほせらまじたる  
 故ゆゑ此有難ありがたい事ことが知しる所ところまで常とこ又また信心しんじんして



本心ほんしんより有難あやうき事ことを了得りやくとくするが活物いさぎありを捉つかえ  
る眼目がんもくありとぞ

迷まよへば魔寄まよると申まうして人の心ひとこころが迷まよふ時ときと其虚そのまよへ

はけこみ悪魔あくまが寄より集あつまりて様々さまざまの因果いんぐい崇たかりを

致いたす油断ゆだんとあらぬぞ

此このち一条いちぢょうハ我われを離えらる、條目ぢょうもくの結東けつとうあり迷まよひと

ハ愆あやまちといふ義ぎよて誤あやまり仕しそこあひの出来いで

る事ことあり思おもてば知しらば誤あやまり仕しそこあひの出いで

来きたる時ときと速すみやりよ改あらため直ただして善ぜんよ移うつれバ

又また一段道いちだんみちよ進まむなり其時そのときと格別くくべつ不有あやう難がたるな

り然しかるよ誤あやまりて改あらめ直たださぬ時ときハ大おほきある過あやま

ちよて是これが即すまち迷まよへば魔寄まよるふて禍神まがくみの寄よ

り集あつまり種々しゆしゆの因果いんぐい崇たかりを致いたす事ことあり恐おそま慎ま

みて御神德ごしんとくを昼夜ひるよる怠あやまりなく毎まも一いつ身しんよ充みち

満みちて有ある様やうよせぬバ透間すうまの出来いでるを云いふ故ゆゑ

よ心こころがみちくたれバ禍津神まろつりの寄よる所ところを少すく



いふても陰氣いんきが萌もむ時ときとそや透間すゐまが出来でき我われを離はなれ得えざるなり故ゆゑは油断ゆだんハからぬぞと誠まこと

め給たまひ一なり

右みぎハ宗忠むねただの神神かみかみ去さり給たまひ一後予疾のちよれやまハ氣枯けがれの

ある時ときハ昔神むかしのかみの講話くわごハありハと一御詞ごことばをね

とひ出いるまにく口躰くちかたみて御蔭ねかげをかふむり侍ま

こ一が歳としを經ゆるまは遺忘おぼわすせん事ことを恐れ且かつ

家内うちうちやうらやま御蔭ねかげを蒙うらむらせたく思おもひ其十そのじゅう

ガ一二いちにを筆記ひつぎ一相向あひむかは掲たげ侍まると爾しか云い管くだの

屋主人やあし謹ここ誌しに

管くだの屋主人やあしハ岡山縣おかやまけん士族しぞく本教ほんけう大講義だいかうぎ星島良ほしじまら

平大人へいだいじん礼李れいり

道の梨俚諺解終



明治十七年十二月廿四日版權免許

明治十八年一月刺成

定價拾五錢

原著者

星島良平

岡山縣士族

註釋人

三宅重造

岡山縣備前國畷山區

岡山新道五十六番地

岡山縣平民

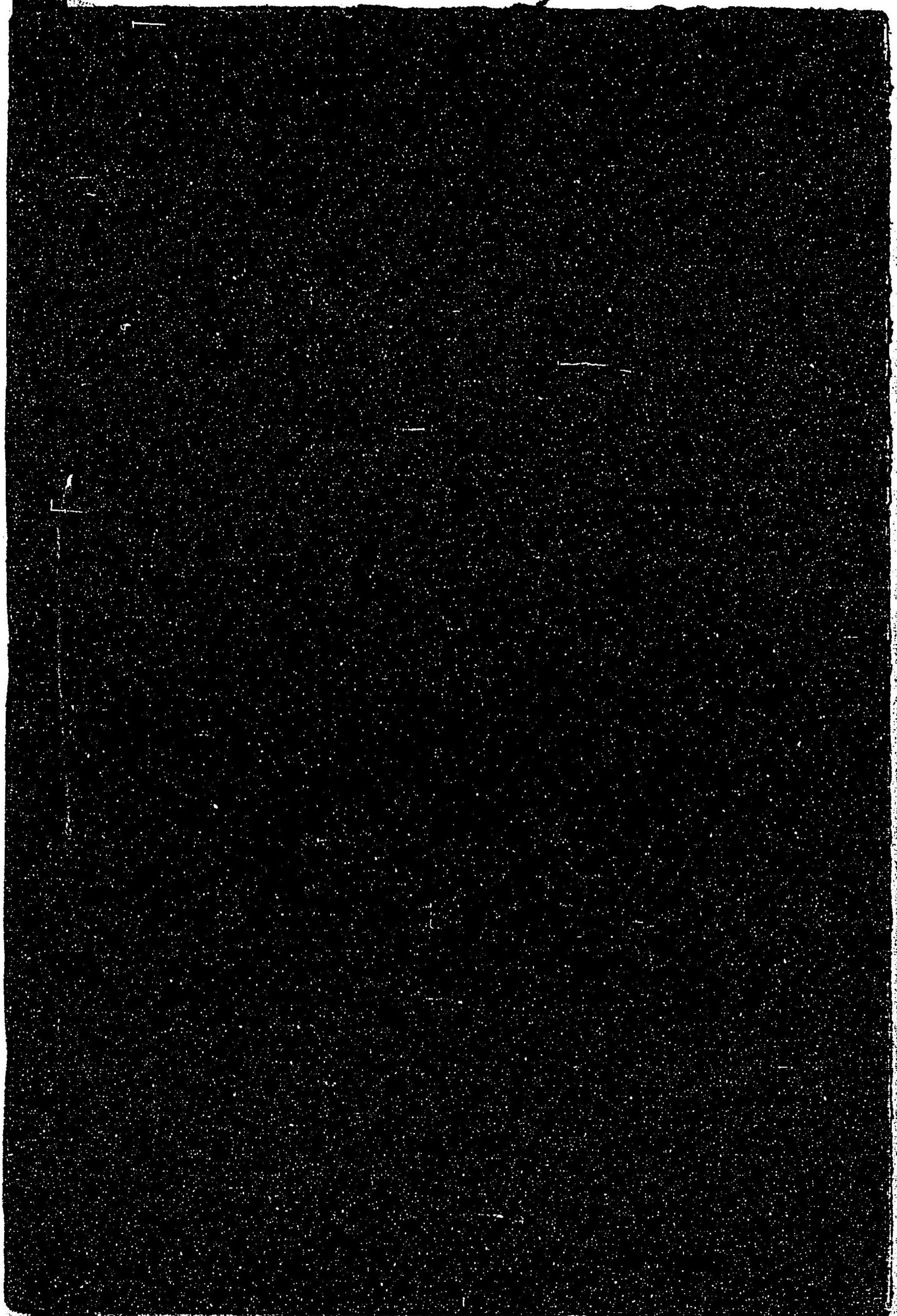
出版人

荻浦平八郎

岡山縣備前國御野郡

上中野村十六番地寄留







特35  
879

014654-000-0

特35-879

道乃栗俚諺解

星島 良平/稿

M18

ABB-1086

